

8mm 方眼罫

Japonica Section

山形市の古墳

第四十四回入選作品

平成2年
115

岩淵賞

科目シールつき

8mm
方眼罫

6の2

渡辺靖一子



。テーマ

山形市の古墳

。動機

。計画

。方法

・動機

をこ？

4年生の時に古墳を遠足でみにいった時が

あって、どうしてこんな所にどうしてした

あるのか調べてみようと思いました。

それから6年生で古墳の勉強をして、

日本(大抵)の古墳やかあった古墳などを

見て、興味をもち山形市には、どういう

古墳があるのか調べてみたくなりました。

・計画

5月＝教科書でならったことを復習する。

6月＝本などで調べる。

7月＝資料をあつめる

8月＝夏休み中に古墳にいてみる。

9月＝まとめ

方法

本を返りる

しりょうをもらう。

教科書でならったことをもとにする。

★ 実際に行ってみる。

どこに行くの？
18,3リ。

箱を作ることにふり、豊かな者と貧しい者が、現われ身分のちがいがうまれた。

それで、財産をふやして、地方の支配者となり、各地に小さな国をつくるようになった。

古墳は四世紀ごろになると、天皇家や
勢力をもった豪族は、その力をしめす
ために古墳をつくりました。

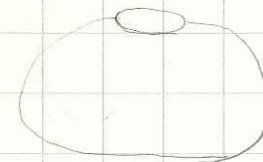
天皇家や豪族は、土を高くもりあげた
大きな墓(古墳)をつくりました。

四世紀ごろから七世紀ごろまでを中心と
する時代を古墳時代といいます。

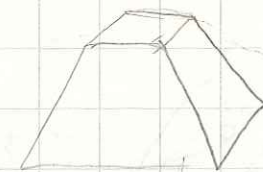
古墳の形

古墳の形にはいろいろあります。

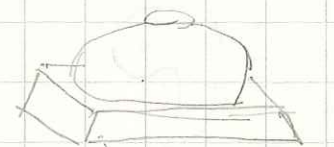
円墳・方墳・双円墳・上円下方墳・前方
後円墳などがあります。



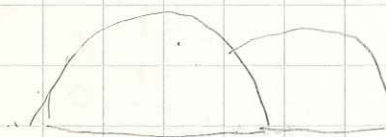
円墳



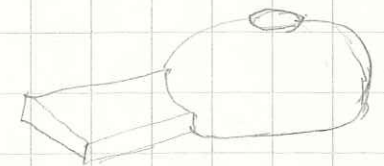
方墳



上円下方墳



双円墳

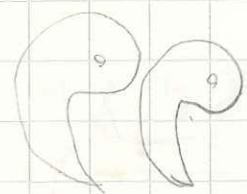


前方後円墳

①最初は山のすその自然地形を利用のち
に平地に人工の墳丘をさずきほりめくら
したものでつくられた。

棺の中やそばからの出土品

遺体とともに 鏡 玉 甲冑、馬具、武器
農具が副葬され墓のまわりには、埴輪が
ならぶ。



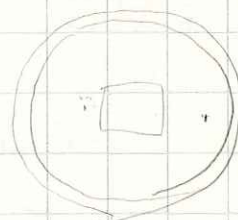
まが玉



馬具



首輪
ネックレス



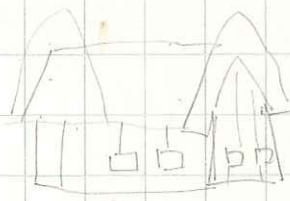
鏡



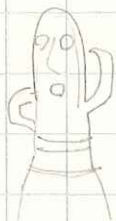
武器



くつ



家



おとこ
人



武人



馬

埴輪

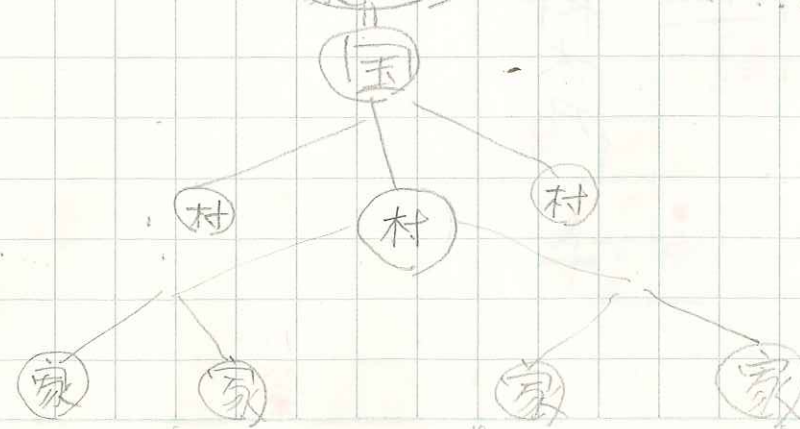
など など...

埴輪は素焼の土器、単純な形で古墳の周囲
に二・三重にならべられている。

1/4. かんばり。

(8mm方眼)

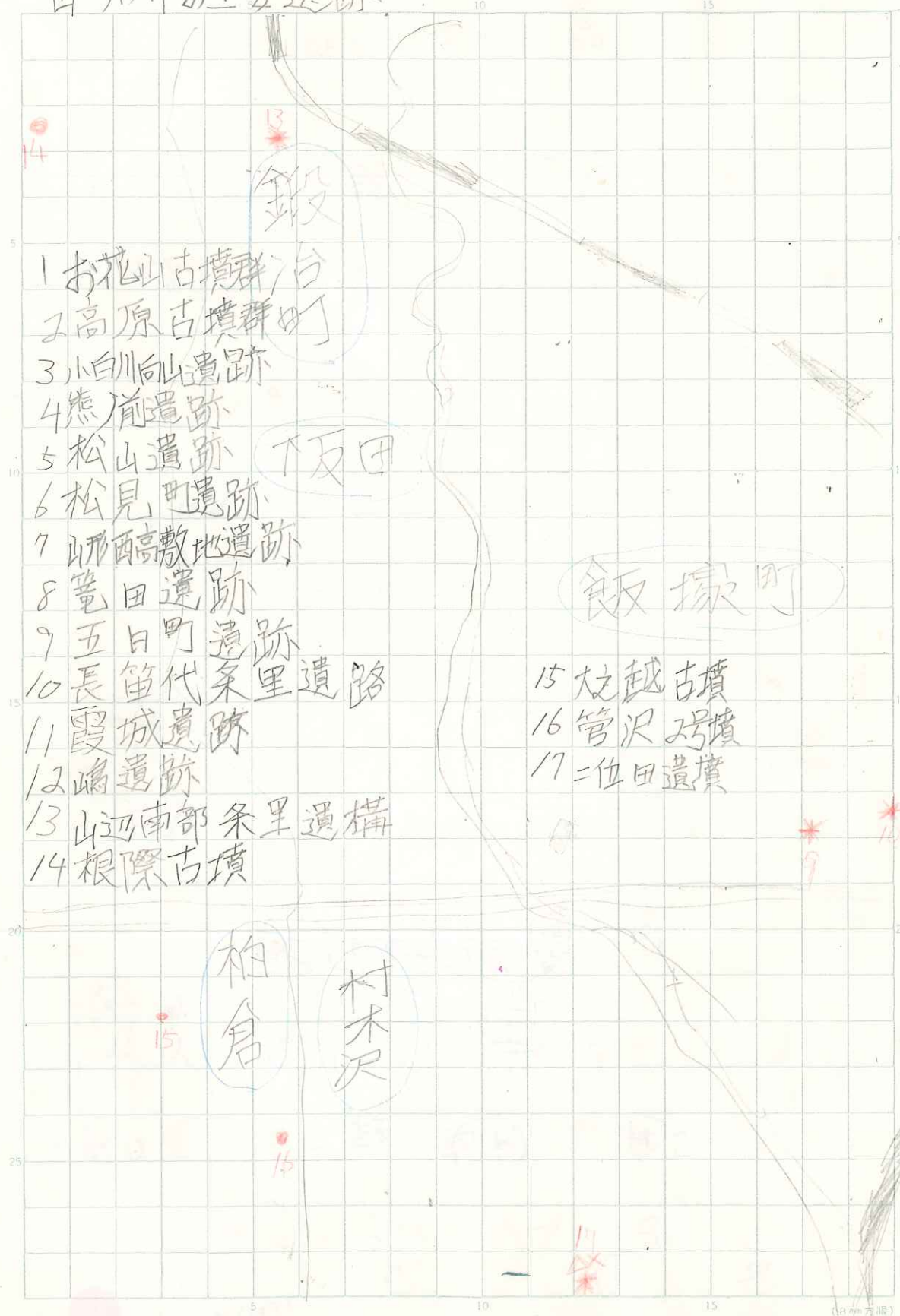
豪族 → 古墳



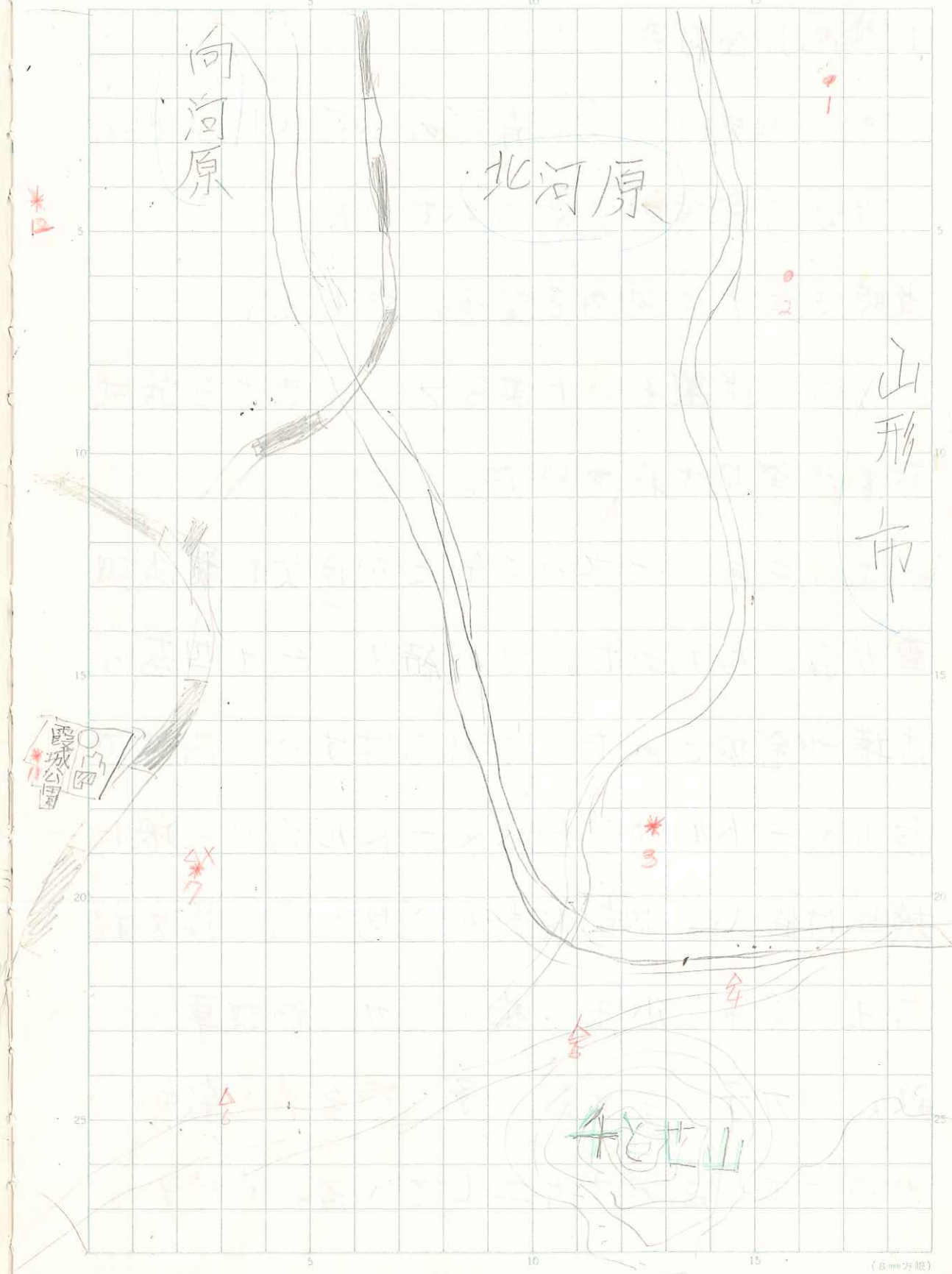
(8mm方眼)

山形市の主要遺跡

No.



No.



1 お花山古墳群

山形市の東の丘陵、青野のお花山は大正のころから古墳群と知られていた。

当時は三十九基の古墳があったらしい。

その後、開墾などによって、ときおり箱式石棺が発見されていた。

一九八二年～一九八三年にかけて、発掘調査がおこなわれた。その結果、二十四基の

古墳が発掘された。これらはすべて円墳で

径九メートルから十八メートルあり一般に

墳丘は低い。内部施設が発見され、埴文鏡

勾玉、管玉、小玉、櫛、直刀、紡錘車、

鉄剣、刀子、乳文鏡、矛、帯金具、鉄鏃、

ガラス玉、磁石が出土している。古墳から

鏡が出土したのは、県内ではじめての例である。

木棺直葬のものは、六世紀代と考えられ

石棺を埋葬施設とするものは七世紀と推定

される。つまり古墳群は六世紀前半に

群形成がはじまり七世紀末までいとなまれた

古墳群であった。

16 管沢ニ号墳

山形盆地の南西、標高一六メートルの

丘陵上に^{管沢}管沢ニ号墳がある。

山形市管沢にある管沢ニ号墳は径五六メートル、高さ四、四メートルの二段築成の

古墳で、東北地方最大の円墳である。

丘陵の頂上部を削平して盛土している。

周囲は幅四メートルの周濠がめぐる。

墳頂部は平坦でその端と下段の上面に円筒

埴輪列がめぐり、それとともに家形、盾形

鞍形、短甲形、キヌガサ形などの器財埴輪

が発見されているが、人物や動物の埴輪は

みられない。短甲埴輪は三角形の鉄板を

革でつづいた短甲で、それから、^お推しても

また、大円墳であること、器財埴輪のセッ

トから考えても五世紀中ごろをくだること

はない。

この古墳が山形盆地ではもっとも古く、

おそらく最初に山形盆地内を政治的に支配

した、首長の墓であることは想像にかたく

ない。この北側に径二〇メートルほどの

一号墳があるが、箱式石棺が出土したと

つたえられ、六世紀代の古墳と考えられる。

一号墳古は小石におおわれていた。

15大^え越古墳

すべて半壊していたが、石棺内部から、
これまで、この地域ではみられなかった

ほど、多くの鉄製品が出土した。

地下深く長方形の墓壇を掘りそのなかに、

箱式石棺が埋められていた。

内部にはベンガラヤススを塗って防腐し蓋

石の上には^{りんびし}剣菱^{かたぎょう}形杏葉をはじめ、鉄具、

遊環、飾鉄、など馬具などが置かれてあった。

上の石棺から出土した、鉄製品には、

^{たんほうしき}単鳳式^{かんとう}環頭^{たし}大刀、鹿角装具の付着したあと

をのこす長大な鉄剣や直刀、鍛冶のさいに

用いられた、鉄鉏、鉄鍬などがあり

五世紀後半に比定される土師器の埴などが

あった。

なかでも環頭大刀は長さ九四、八センチで

わずかに内反りの傾向をしめし、刃区は

ななめに、浅く切られ、目釘の穴がある、

柄頭の内環には銀象嵌をはむこし金箔を

押している。内環の鳳は首部が太く、^{くちばし}嘴が

明瞭で金箔がのこり、頭頂の冠毛が外環に

のびてつながる。日本国内から出土してい

る単鳳環のなかでももっとも古い。

つばの部分に鹿角装の痕跡をのこす鉄剣は

全長八四センチで東北地方出土の鉄剣のな

かでもっとも長大である。このような長剣

は五世紀後半から六世紀にかけての関東北

部から東北南部の古墳にみられる。

この古墳の年代は、六世紀上ちかい五世紀
後半または六世紀初頭と考えられる。

(以上、日本の古代遺跡より)

実際に行ってみて。(見学)

千手堂
そのお寺は千手観音がまつられているお寺
です。古墳はなく、入口に石棺がはいってあ
りました。お寺のまわりは、家がふつうに
ありました。

石棺にはこうかいてありました。

昭和9年小学校増築の際出土セル、衛守塚

古墳第四号ト昭和34年せうら 狐山古墳第

二号出土のものとおわせ複元セルもの

(方位郭組規模ハ第四古墳ヲ模セリ)

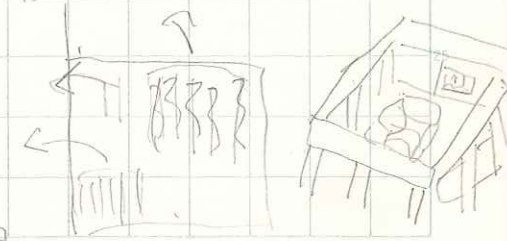
奈良朝時代ノモノト推定セラル。所記参道

東側所在ノ板扉ニ基テ同時複元セルモノ

昭和卅四年七月十七日

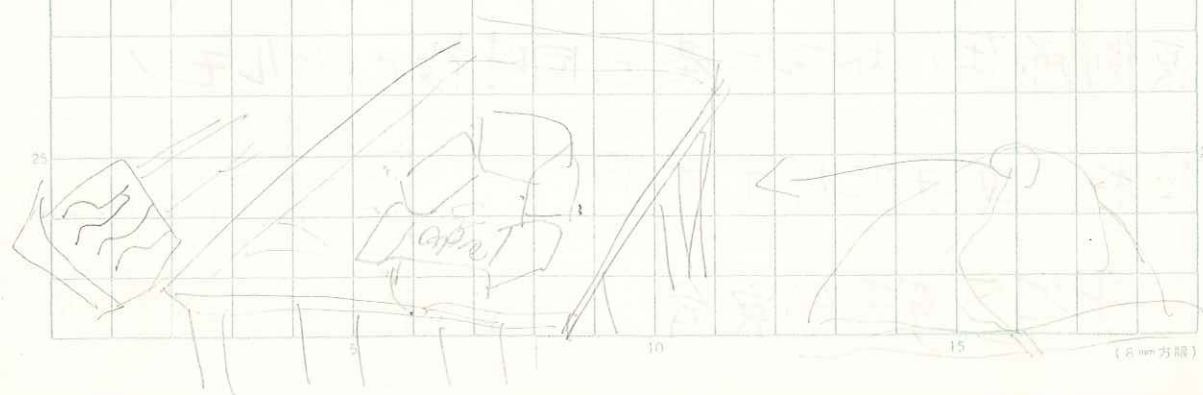
出羽地区郷土研究会

い
名
の
名



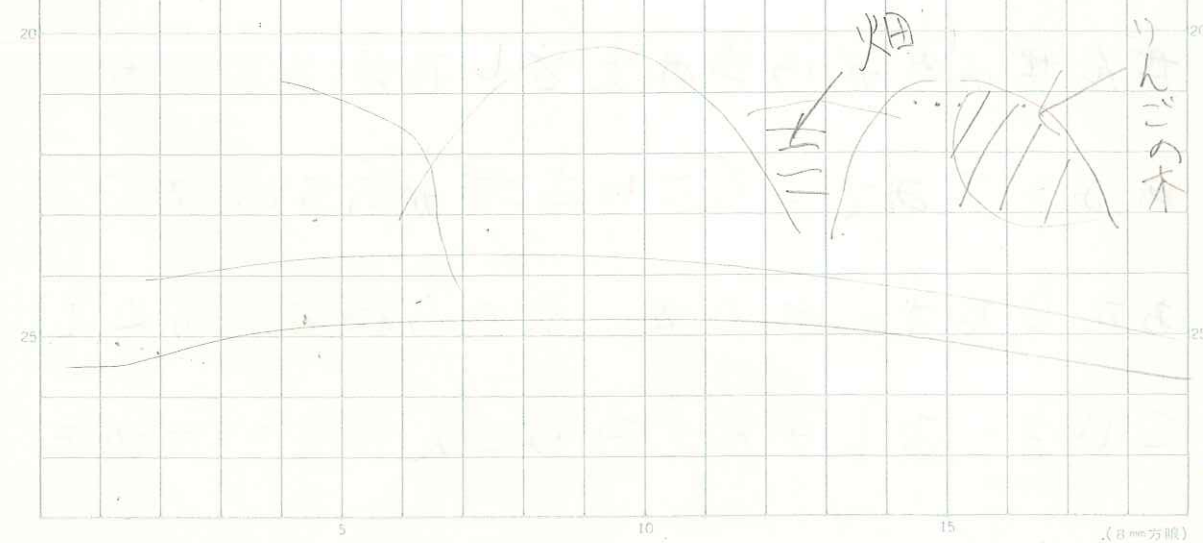
高原古墳群

いって見たら、古墳のようなものはいっぱいあった。人にきいていって見たら古墳の山があつて、上にのぼったらやはり石棺がおりてあり説明板が、たおれていました。石棺にはくものすやかれ葉がおちていて道にはおじょう様がおいであり、せきとかお墓がたおれていました。このごろは、人もあまりないようです。この古墳五世紀から七世紀ごろまでのものでした。



お花山古墳群

お花山古墳群にいって見たらまた古墳らしきものはいっぱいありました。人にきいて見たら、「お花山古墳は、ちょうど查をしおち、もうない」といってみせました。そうしたら古墳にはりんごの木やほかの木におおわれていました。



管沢2号墳

最初、いって見たときには、古墳のよう
ものがいっぱいあってわからなかった。

2回目に行ったときは、農家のおじさんに
聞いてみたら、つれていってくれた。

「ここは山の上で、もう手入れがされていま
草がはえて虫がいるので、長そで長ズボ
ンでもう一度きたほうがいい。」

とおしえてくれたのでまた、3回目に長そ
で長ズボンできた。最初きたところとは、

ぜんぜんちがう山の上でした。

のぼって見て、どこに古墳があるのか、

わからなかったのを、ぶどう畑で収かくし

ている、おじさんとおばさんにさいてみた。

すると、ぶどう畑にないところか
一号古墳であるといっていた。

二号古墳はぶどう畑のすぐそばにあつて、

古墳はきれいに草がかりとられている、

写真をとったが、古墳がぜんぶみえるよう

にとれま場所がなく、あまりいい写真がと

れなかった。山の上にあるのがすこしかあ

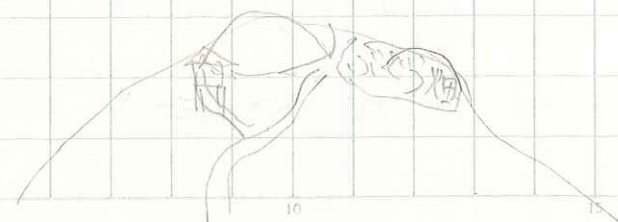
っていておもしろかった。

ここは古墳と説明板があるだけで石槽はな

かった。ぶどうを収かくしているおじさん

とおばさんから、もぎたてのぶどうをもら

った。



大え越古墳

大え越古墳も最初はどこにあるかわからなかった。又回目で見わかっていった。

ここも復元されていた。古墳にはお墓のお墓のものがあいていたよくみるとそれは、

石棺であった。まわりは、みぞになってい

て、説明板がおいてある。古墳も草かりが

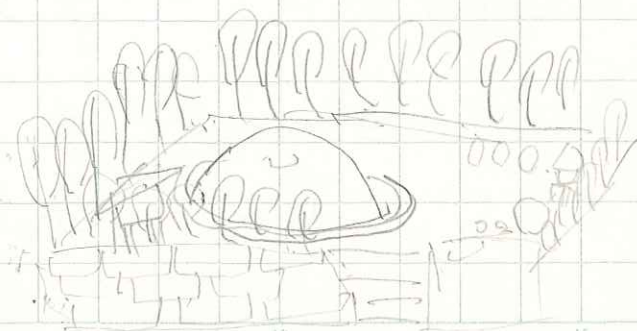
なっていて、きれいだった古墳の横に石が

あいてあった、なにかかんけいあるのだろ

うか。ここは管沢2号墳とはちかって、

石かきのうえに あってきれいになってい

た。



尚古館

ここは、村の人たちが協力してつくった、

資料館で、お寺の中にありました。

みせてもらいにいったらお寺の子どもの人
がかぎをかしてもらい、くらのような所

いきました。中に入ってみると、むかし、

の人々がかつかつていた、いろいろやうす、

などなど、縄文時代のいせき、つばや石

石棺があまりのつぼ、そして、管沢2号墳の

ものもおいてありました。

行、てみて、なかつたところ

本に古墳の場所と遺跡がかいてあったので
遺跡の所も調べてみた。

◎熊ノ前遺跡と松山遺跡をさがしてみたが
どこえい、てもなく、人に聞いてみたら
「もうなくなつた」と言われてしまつた。

◎五日町遺跡もいって見たけどなく
公園の中にはいっててもそれらしきものは
なかつた。

“遺跡や古墳は、調べてたら見せるところにも
なるが、おあして、べつのもをつく
ってしまうことが多い。(つくるためにほつ
て見つかるから)”

◎ たくさん古墳について話した。地図をもつてくると
もっとわかりやすい。

墓室がありません。三～五世紀の古墳は、
墓室は竪穴式石室になつていて、遺体は
木の棺、または長持型の石棺におさめら
れていました。

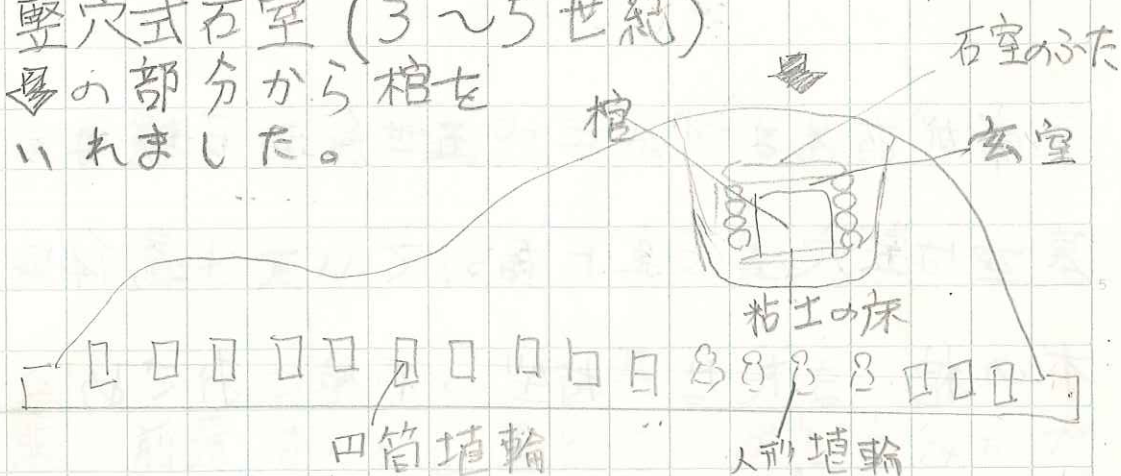
六～七世紀の古墳は、横穴式石室です。
墳丘の側面に入り口があり、
せんだうとよばれる通路の奥に棺が入れ
た、安置する玄室があります。

絵画の描かれた、装飾古墳もあります。

(うぎのページの絵)

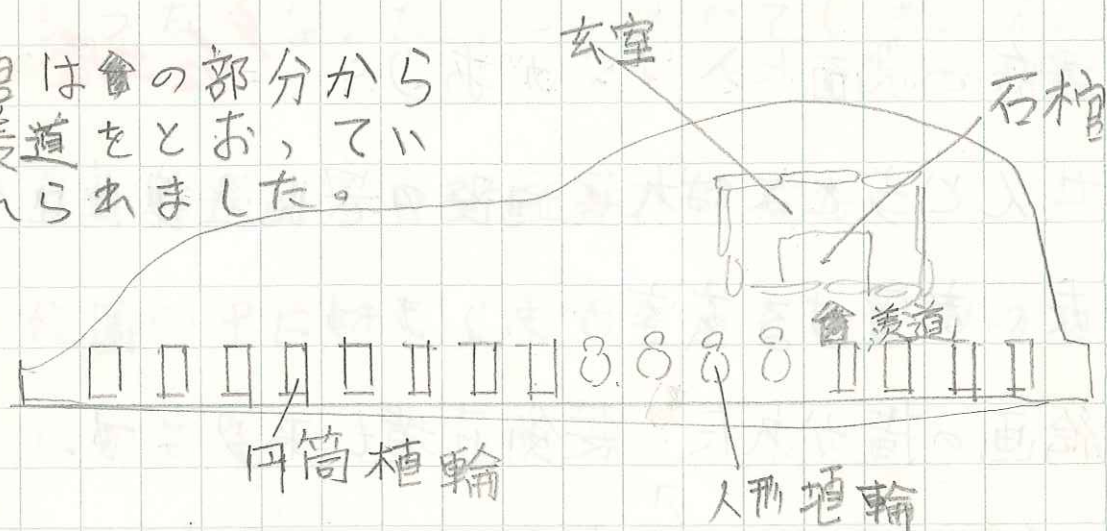
● 竪穴式石室 (3~5世紀)

墓の部分から棺を
いれました。



横穴式石室 (6~7世紀)

棺は墓の部分から
羨道をとおり、てい
れらあました。



(以上日本の歴史2・大王の国づくり=大和
時代より)

まとめ

① 実際に古墳にいったら、古墳のある場所
がきま、ている(まとま、ている)よう
にかんじた。

ていれなどがされてあるのもあれば
な、ていないものもあった。

むかしはそこ(古墳や集、る場所が)
さかえていたが今、古墳のある場所があ
まりたてものがなく田や畑が多かった。

遺跡が見つかった場所はたてものが多い

古墳や遺跡は、たてものや道路をつくる
時にみつかるので、すくなくなつて、

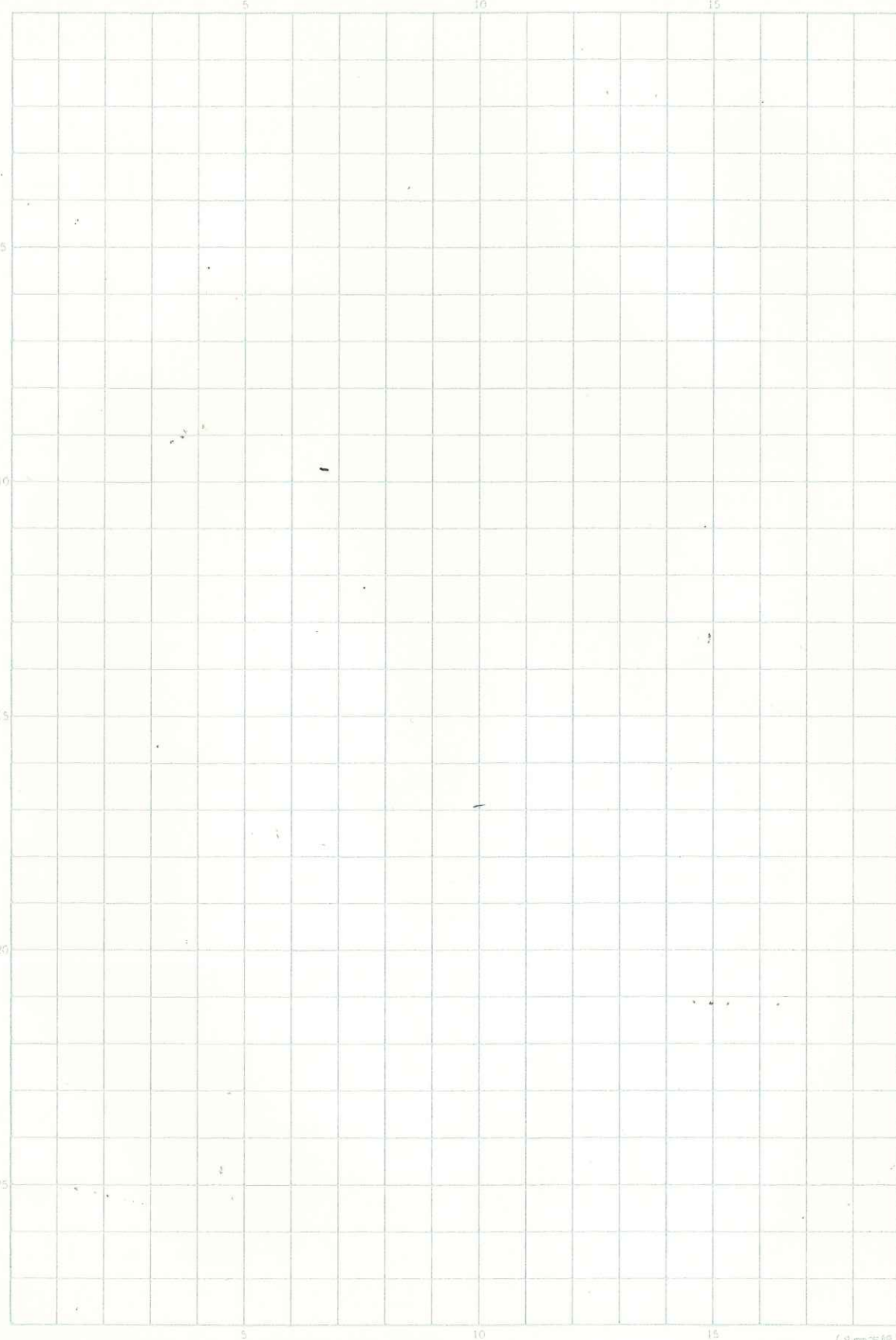
複元がそのままで、なにもなくなつてし
まう。

古墳の研究をしただけじゃあまり、くわしく
できなかった。

もっと、はっくつされたものなども
みてみたかった。

家のまわりにも遺跡があるので、とても
びっくりした。

小さい山は、なんとなく古墳のように見え
るようになってしまった。



上山市金谷の養護老人ホーム蔵王長寿園内にある土矢倉古墳群によやく説明板が立った。

県指定史跡で、六世紀後半に造られたとみられる。三基あり、一号墳、二号墳は円墳だが、二号墳は前方後円墳で日本海側では北限にある貴重な史跡。老人ホームの施設の中にある珍しい土地条件だ。ただ説明

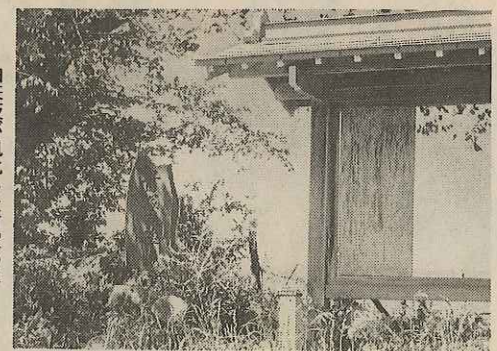
風雨にさらされて見る陰も

土矢倉古墳群に新説明板

首塚由来板は朽ちたまま

上 山

人が目立つ程度で、果たして観光資源となり得るかが疑問視され、立て替える主体がどこになるのかはっきりしない状況。由来そのものも風化しつつあ



説明板が新しくなった土矢倉古墳

由来板が風化した首塚の碑

